

シンポジウムS2 更新世人骨を産出する白保竿根田原洞穴遺跡の成り立ち

11月3日 A会場 16:00-17:40

オーガナイザー：河野 礼子（慶應大・文）・土肥 直美

石垣島・新石垣空港敷地内に位置する白保竿根田原洞穴遺跡からは、2010年度の沖縄県による調査、およびその後2016年まで文化庁の指導のもとで実施された現地発掘調査により、頭骨のある4個体を含めて、20体分に近い数の旧石器時代人骨が回収されている。この間の調査については、2016年度末に最終の報告書が刊行され、遺跡の成り立ちや遺跡および遺物の年代、人骨の出土状況などについて、ここまで明らかとなってきた知見が論じられている。出土人骨そのものについても第一段階の整理作業が完了し、その質・量的な全貌が見えてきたところである。これらの人骨について人類学的研究を進めていくための態勢がようやく整ったといえよう。本シンポジウムでは、出土人骨資料の研究を進めていく上で欠かすことのできない、遺跡の成り立ちについての理解を深めることを目的とし、遺跡全体の状況や、洞穴そのもの、そして人骨とそれを包含する堆積層がいつどのように形成されてきたのかについて、地質学・年代学・考古学の立場から検討してきた結果を報告する。

- S2-1 白保竿根田原洞穴遺跡の調査概要報告／仲座 久宜（沖縄県埋文）
- S2-2 白保竿根田原洞穴と遺物包含層の形成過程／石原 与四郎（福岡大・理）
- S2-3 白保竿根田原洞穴遺跡の年代／吉村 和久（九大・RIセンター）
- S2-4 白保竿根田原洞穴遺跡の旧石器時代人骨出土状況から考えられる遺跡の性格と葬墓制／片桐 千亜紀（沖縄県埋文）